

## 有馬セナリヨ跡地

ここは日本で最初の神学校のひとつがあった場所と考えられています。イエズス会のアジア全域の布教活動を統括していた巡察師アレッサンドロ・ヴァリニャーノ神父は、1579 年に来日しました。3 年間の日本滞在中、ヴァリニャーノ神父は島原を治めていた大名、有馬晴信（1567-1612）に洗礼を受けました。しかし、ヴァリニャーノ神父の一番の目標は、日本におけるカトリック布教のために強固な基盤を確立することでした。より多くの司祭が必要とされるのが明白になったため、必要な司祭の数を揃える唯一の方法として、日本人司祭の養成を開始する決定がなされました。ヴァリニャーノ神父は、有馬（長崎県）と安土（滋賀県）のセナリヨ 2 校に加え、九州東部の大分にコレジヨを 1 校設立しました。

学者たちは、有馬セナリヨの場所を特定するのに苦労しました。16 世紀以降地形が変わっているだけでなく、入手可能な最古の地図は、1640 年代（セナリヨが設立されてから 60 年後）のもので、あまり詳細に描かれていなかったためです。記録から、学生たちは神学校から海まで歩いて行けたことが分かっています。この情報に基づいて、長崎の日本二十六聖人記念館を創設し初代館長に就任したイエズス会の司祭で歴史家のディエゴ・パチェコ神父（1922-2008）は、実際に有馬セナリヨがあったのはおそらくこの場所だったことを割り出しました。